

科目名	疾病治療論1			ナンバリング	BSS421	授業形態	講義
対象学年	1年	開講時期	後期	科目分類	必修	単位数	2単位
代表教員	佐藤龍昌	担当教員					

授業の概要	看護学を修得するために、まず疾病成立の根本原理と各種病態における機能的・形態的变化の基本的事項を学ぶ。ここでは、疾病を細胞障がい、循環障がい、炎症・感染症・免疫異常、腫瘍、先天異常・代謝異常・老化に区分して学修する。次いで、主要な呼吸器疾患、循環器疾患、消化器疾患、血液・造血器疾患の病態生理、診断、治療、転帰について学修する。特に、治療については、在宅ケアを含めた看護との関連性についても学修する。
到達目標	1、全身の各臓器に共通する病的変化について理解し疾病の成り立ちについて説明できる。2、個々の疾患概念について説明できる。3、個々の疾患の症状、臨床経過について説明できる。4、個々の疾患の診断、治療について説明できる。
学習のアドバイス (勉強方法、履修に必要な予備知識など)	疾病治療論は、すでに履修した解剖生理学、生化学を基本とし公衆衛生学、疫学などの社会医学と関連する。また、日々更新される診断・治療の選択には心理学、哲学等の広範囲な知識を必要としていることを常に意識して学習してほしい。講義では時間の制約上極めて基本的な事項の説明にとどまるが各自の日々の学習よりさらに理解を深めてほしい。講義で使用するスライド、資料等はmanaba@IMUIにて開示する。
ディプロマポリシーとの 関連	【看護学部看護学科のディプロマポリシー】
	○ 1. 広い視野と豊かな教養に基づき、看護の担い手としてふさわしいヒューマニズムと倫理観を身につけている。
	2. EBN(Evidence Based Nursing: 根拠に基づいた看護)に基づき、自律的に看護を実践することができる。
	○ 3. 生命の尊厳と人権を尊重する姿勢を身につけ、多職種と連携・協働することができる。
	4. 地域の健康課題に関するニーズをとらえ、災害時の援助活動も含め、積極的に地域貢献できる能力と態度を身につけている。
	○ 5. 看護専門職として科学と看護の進展に対応するために、生涯にわたって持続可能な主体的学修ができる。

標準的な到達レベル(合格ライン)の目安	理想的な到達レベルの目安
1、全身の各臓器に共通する病的変化について理解し疾病の成り立ちについて説明できる。2、個々の疾患概念について説明できる。3、個々の疾患の症状、臨床経過について説明できる。4、個々の疾患の診断、治療について説明できる。期末試験100点満点で70点以上80点未満。	1、全身の各臓器に共通する病的変化について理解し疾病の成り立ちについてわかりやすく説明できる。2、個々の疾患概念についてわかりやすく説明できる。3、個々の疾患の症状、臨床経過についてわかりやすく説明できる。4、個々の疾患の診断、治療についてわかりやすく説明できる。期末試験100点満点で80点以上90点未満。

評価方法	成績評価観点						評価割合
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	
定期試験(中間・期末試験)	○	○					100%
小テスト・授業内レポート							
宿題・授業外レポート							
授業態度・授業への参加	○	○	○				

課題、評価のフィードバック	期末試験(多肢選択方式の客観試験)100点満点で評価する。
---------------	-------------------------------

	回次	テーマ	授業内容	備考
授業計画	第1回	疾病の成り立ち①	病理学概論、細胞障害・細胞増殖、細胞・組織の修復と再生について概説できる。	
	第2回	疾病の成り立ち②	循環障害について概説できる。	
	第3回	疾病の成り立ち③	炎症・感染症・免疫機構について概説できる。	
	第4回	疾病の成り立ち④	腫瘍について概要できる。	
	第5回	疾病の成り立ち⑤	先天異常、代謝異常・老化について概要できる。	
	第6回	呼吸器疾患①	肺炎・慢性閉塞性肺疾患の病態、診断、治療について概説できる。	
	第7回	呼吸器疾患②	肺結核・気管支喘息・肺癌の病態、診断、治療について概説できる。	
	第8回	消化器疾患①	食道・胃・十二指腸疾患の病態、診断、治療について概説できる。	
	第9回	消化器疾患②	小腸・大腸・肛門疾患の病態、診断、治療について概説できる。	
	第10回	消化器疾患③	肝臓・胆道・膵臓疾患の病態、診断、治療について概説できる。	
	第11回	循環器疾患①	循環器疾患、特に不整脈(刺激伝導系の障害)の病態、診断、治療について概説できる。	
	第12回	循環器疾患②	循環器疾患、特に虚血性心疾患の病態、診断、治療について概説できる。	
	第13回	循環器疾患③	循環器疾患、特に心不全の病態、診断、治療について概説できる。	
	第14回	血液・造血管疾患①	血液・造血管疾患、特に貧血の病態、診断、治療について概説できる。	
	第15回	血液・造血管疾患②	血液・造血管疾患、特に白血病の病態、診断、治療について概説できる。	
		試験	試験を実施する。	
授業の進め方		講義と質疑応答とする。		
授業外学習の指示		シラバスに記載されている次回の授業内容、到達目標を確認し教科書、資料等を用いて事前学習を行い授業に臨むこと。事前学習時間は最低30分を要する。授業終了後はレポート課題にて積極的に自己学修を行い知識と理解の定着に努めること。 (授業外学習時間: 毎週 60 分)		

教科書	①ナーシング・グラフィカ 疾患の成り立ち(1)病態生理学 ②ナーシング・グラフィカ 疾患と治療健康の回復と看護(1)～(7)
参考書	
参考URLなど	
その他	